

令和4年度 第12回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和5年1月10日（火） 15時00分から16時00分まで

開催場所：A301-302会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、塚平企画部長、塚平市民協働環境部長、高山健康福祉部長、串原産業経済部長、今産業経済部参事、米山建設部長、毛利建設部参事、田中危機管理部長、土屋上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、松下教育委員会参与、下平リニア推進課長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、林企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・この連休に、「20歳の集い」や去年一昨年と実施できなかった「出初式」がそれぞれ実施できた。関係部局等の職員の皆さんに感謝申し上げます。
- ・日本一住みたい田舎に選ばれた件について、市民の皆さんから声をかけていただき、反響が大きいと感じている。市民の皆さんから声をかけられる機会が増える話題であるため、何が評価されているのか、実際に移住している人がどのように増えているのかを答えられるようにしてほしい。担当部局は、情報共有することをお願いします。
- ・創造館についても、市民の皆さんから声をかけていただくことの非常に多い話題である。状況を聞かれた際には、県が中心となって市も協力しながら、一生懸命利用者の皆さんの声を聞き、活動場所を確保できるよう取り組んでいることを伝えていただきたい。

＜副市長＞

- ・12月議会で指定管理者の指定の議案が多くあった。施設マネジメントの中では、指定管理者制度の期間が満了する際には、施設を今後どうしていくのかを議論し、必要性を確認した上で、改めて指定管理するための議案を提出する過程をとることになっている。委員会での説明が現状説明となり、施設の必要性や、今後どうしていくのかについての市としての意思が伝わりにくかったと感じた。そのため、指定管理料の額などの協定後に関する議論が先になってしまった。まずは施設を市としてどうするかをしっかりと説明する必要があった。第1回定例会では、予算を説明していくことになるが、単に内容や金額の説明だけではなく、その予算を計上する意図や狙いをしっかりと踏まえて、委員会の質疑ができるように準備すること。
- ・第4回定例会で中日提案の契約案件が2件あった。今回は中日の後に委員会があったため、上程した議案が委員会に諮られて審議されたが、中日提案があるからできるということではなく、委員会で審議いただくためのスケジュール感を持って議案を作ること。

＜教育長＞

- ・公民館、地域のまちづくり委員会を中心に、昨年までの「成人式」とは違う名称で「20歳の集い」が実施され、多いところで8割9割の参加というような状況であった。私も伊賀良地区に参加をさせていただいた。今までの「成人式」と同様に、実行委員会を組織して、地域について再発見するような探求的な学びも取り入れながらの実施となっていた。名称も変わった今回の「20歳の集い」を評価しながら、来年度以降には、よりよい形で実施できるといい。
- ・全ての学校で3学期がスタートした。現在、インフルエンザで1校学級閉鎖となっている。インフルエンザの流行を認識し、改めて気をつけていかなければいけない。
- ・部長会議も残り3回であるため、しっかりと取り組んでいきたい。

2 その他、連絡事項

(1) DX人材の育成に向けた基礎調査の実施について（企画部）

◇意見

（教育委員会参与）

- ・DX人材は一般的に使われる言葉だが、ややもすると、デジタルかアナログかといった2項対立的な話の元になってしまう。デジタル化の推進によって、組織や業務のあり方を変革できる力を持った職員を育成

していくことが重要。「DX推進のための人材育成に向けた基礎調査」という言い方にした方が良いのではないかと。

- ・アナログ発想の中でことを解決していくことも、一方ではすごく重要なこと。バランスを見極めて、どういう方法で基本的な改革を行っていくかが大事であり、市役所には、アナログ手法の発想の中で効率優先ではなく人との関係性を編んでいく中でことを成していくことも必要である。

(企画部長)

- ・DX人材の育成に向けた基礎調査というタイトルを考えている。DXのトランスフォーメーションの部分が大事になってくる。現在では、デジタル知識は必須と考えており、人口が減少していく時代を乗り越えていくために、効率を上げるツールを使いこなすことは基礎的な力と捉えている。デジタル音痴といったことは言っていない。デジタルはあくまで手法。大事なことは改革であることは当然であり、今回の調査はスキルと改革志向の両方が把握できるようになっている。まずは改革志向をこの調査によって、把握していきたい。

(2) ご当地ナンバープレートに関するアンケートの実施について (企画部)

◇意見等なし

(3) 第4回定例会の反省

(企画部長)

- ・代表質問については、聞き取りも含めて多くは議論がかみ合っていたと思っている。
- ・質問の項目が非常に多く、項目読み上げるのに30分以上かかる場合もあった。こちらの答弁も、当然その倍かかるため、最終的に一問一答をしている時間がなかった。実際に答弁している時間は、ほかと比べて長いわけではないが、そういう印象になったということもあり、答弁書を読みながら空気も読んでいただければと思う。
- ・創造館の話については、県の施設であることから市としては答弁しにくいものではあるが、文化や公民館活動に対する考え方、見解があったものと思われ、真摯に応じさせていただいた。
- ・指定管理については、金額をおさえていなかったために、議論が進まなかった点を委員長報告で言われている。委員会の報告時にそういったことがないよう、課長と十分に準備すること。
- ・一般質問の中で、突然数字を聞かれた場面があった。議会運営委員会において、数字を質問する際には必ず通告をするよう話をされている。一般質問や代表質問で突然数字を聞かれた場合、通告がないためここでは分からないとする答えでも良い。本来は、準備しておくことが大事だと思うが、ご承知おきいただき、議会事務局にも気を付けていただくよう申し上げたいと思う。
- ・3月の議会では予算が審議されるため、数字について突っ込んだ議論が想定される。数字を質問する際に通告があるのは一般質問と代表質問の話であり、委員会では普通に聞かれることから、特に重点政策について部内で課長等と確認をしておくことが必要である。

(教育委員会参与)

- ・指定管理先から出された収支計画の妥当性については、質問が多く答弁に苦慮していた。おそらく、先方が積算して出してくれたためそれで大丈夫だと思っていたところへの質問であったため想定外だったのではないかと思う。電気代が高騰している中でこの収支計画でいけるのかといった議論があり、若干そこまでの答えを市側でするのは迷うところがあるが、気をつけて関わっていく必要がある。そもそも金額の妥当性は、直営であればどのくらいコストがかかり、そのコストに対して妥当か否かが一つの基準になる。直営の場合の試算をし、妥当性を見るところまで詰めた上で説明していくことが必要になると思う。

(副市長)

- ・行革本部会議で検討すること。

(4) その他

(市民協働環境部長)

- ・住みたい田舎ベストランキングで1位になったことについて、早速に調査をし情報共有したいと思う。

3 閉会